



平成28年3月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年8月19日  
上場取引所 東

上場会社名 株式会社 テクノメディカ  
コード番号 6678 URL <http://www.TechnoMedica.co.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長  
問合せ先責任者 (役職名) 経営管理部長  
定時株主総会開催予定日 平成28年9月15日  
有価証券報告書提出予定日 平成28年8月19日  
決算補足説明資料作成の有無 : 無  
決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 實吉 政知  
(氏名) 萩原 一志  
配当支払開始予定日

TEL 045-948-1961  
平成28年9月16日

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期の業績(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(1) 経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期	9,032	△1.2	1,640	△28.3	1,645	△26.9	1,197	△16.2
27年3月期	9,145	2.4	2,288	△1.9	2,249	△3.7	1,429	△1.7

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	自己資本当期純利 益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
28年3月期	136.78	—	10.1	11.0	18.7
27年3月期	163.14	—	12.9	15.8	25.0

(参考) 持分法投資損益 28年3月期 一百万円 27年3月期 一百万円

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年3月期	14,801	12,081	81.6	1,403.18
27年3月期	15,148	11,578	76.4	1,321.75

(参考) 自己資本 28年3月期 12,081百万円 27年3月期 11,578百万円

(3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
28年3月期	1,075	△82	△693	5,991
27年3月期	1,729	△140	△289	5,692

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産配当 率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
27年3月期	—	0.00	—	43.00	43.00	376	26.4	3.2
28年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0	—	—
29年3月期(予想)	—	0.00	—	43.00	—	—	—	—

当社は平成28年6月8日付「平成28年3月期 配当予想の修正に関するお知らせ」の通り、当初の予定期日で株主総会の招集手続きを行う事が出来ず、平成28年3月31日を基準日とする剰余金の配当を行えませんでした。このため、平成28年3月期の配当は、大変遺憾ながら0円としております。また、平成28年6月23日付「剰余金の配当に関するお知らせ」の通り、当社は平成28年6月24日を基準日とした1株あたり43円の配当を予定しております。このため、平成29年3月期の配当につきましては、平成29年3月31日を基準日とする期末配当43円の予定と合計し、1株あたり86円となる予定です。

3. 平成29年3月期の業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

平成29年3月期の業績予想につきましては、現時点で合理的な算定が困難であるため開示しておりません。予想の開示が可能となった時点で、速やかに開示いたします。

※ 注記事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(2) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

28年3月期	8,760,000 株	27年3月期	8,760,000 株
--------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

28年3月期	150,099 株	27年3月期	99 株
--------	-----------	--------	------

③ 期中平均株式数

28年3月期	8,751,704 株	27年3月期	8,759,928 株
--------	-------------	--------	-------------

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続を実施しております。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績・財政状態に関する分析 .....	2
(1) 経営成績に関する分析 .....	2
(2) 財政状態に関する分析 .....	3
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当 .....	4
(4) 事業等のリスク .....	5
2. 企業集団の状況 .....	8
3. 経営方針 .....	10
(1) 会社の経営の基本方針 .....	10
(2) 目標とする経営指標 .....	10
(3) 中長期的な会社の経営戦略 .....	10
(4) 会社の対処すべき課題 .....	11
4. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	12
5. 財務諸表 .....	13
(1) 貸借対照表 .....	13
(2) 損益計算書 .....	15
(3) 株主資本等変動計算書 .....	17
(4) キャッシュ・フロー計算書 .....	19
(5) 財務諸表に関する注記事項 .....	20
(継続企業の前提に関する注記) .....	20
(重要な会計方針) .....	20
(貸借対照表関係) .....	20
(損益計算書関係) .....	21
(株主資本等変動計算書関係) .....	21
(キャッシュ・フロー計算書関係) .....	22
(退職給付関係) .....	22
(税効果会計関係) .....	23
(持分法損益) .....	23
(セグメント情報等) .....	23
(関連当事者情報) .....	25
(1株当たり情報) .....	26
(重要な後発事象) .....	26
6. その他 .....	27
(1) 役員の移動 .....	27
(2) その他 .....	27

## 1. 経営成績・財政状態に関する分析

## (1) 経営成績に関する分析

当事業年度におけるわが国経済は、政府および日銀による経済・金融政策を背景に、企業業績や雇用環境に改善が見られるなど、緩やかな景気回復基調を維持しつつも、個人消費の伸び悩みや、為替相場・原油価格の急激な変動等の懸念材料も多く、依然として先行きの不透明な状況で推移しました。

世界経済については、米国・欧州において堅調な個人消費の下支え等により底堅く推移した一方、中国をはじめとする新興国においては景気減速の傾向が顕著となり、米国の金融政策や原材料価格の動向に対する警戒感も相まって、全体として停滞感の強い展開が続きしました。

国内医療業界においては、政府の定める「骨太の方針」において、2016年度から2018年度を財政健全化のための「集中改革期間」と位置づけ、社会保障費の伸びを抑制していく方針が明確に示される中、平成28年4月1日に行なわれた診療報酬の改定においては、本体・薬価等を合わせた全体としての改定率がマイナス0.84%となるなど、医療費の抑制政策が継続して推進されており、依然として厳しい状況が続いております。

このような経営環境の中で、当社では、採血管準備装置の主力機種であるBC・ROBO-8000RFIDにより既存ユーザーの更新需要を着実に捕捉するとともに、健診施設・クリニック向けの卓上タイプにより、中小規模の医療施設における検体管理強化のニーズにも対応し、また、全自動尿分取装置UA・ROBO-2000RFID、RFID輸血管理・照合システムおよびRFID尿検体管理システムの販売拡大により、更なる市場シェアの拡大に注力してまいりました。

(※) RFID:Radio Frequency IDentification・・・ICタグの個別情報を無線通信によって読み書きするシステム

## &lt;参考&gt;品目別売上高

		前事業年度 累計期間	当事業年度 累計期間	前年同期比
		(百万円)	(百万円)	(%)
国内	採血管準備装置	3,693	3,533	△4.3
	検体検査装置	545	459	△15.8
	消耗品	3,826	3,990	4.3
	その他	179	249	39.1
海外	採血管準備装置	550	414	△24.8
	検体検査装置	65	84	29.2
	消耗品	284	300	5.5
合	計	9,145	9,032	△1.2

その結果、国内市場における売上高は、8,233,096千円(前期比0.1%減)となりました。海外市場における売上高は、欧州・中南米向けの装置売上が伸長した一方、アジア市場における販売が伸び悩んだことにより、799,325千円(前期比11.3%減)、また、総売上高に対する海外売上高の占める割合は、前期比1.1ポイント減少し8.8%となりました。

以上の営業活動の結果、当事業年度の売上高は9,032,422千円(前期比1.2%減少)となりました。品目別の売上高としては、消耗品等(前期比4.4%増加)、その他(前期比38.8%増加)が、前期比において増加となりました。利益面に関しては、仕入原価の増加等により売上総利益は4,009,728千円(前期比11.4%減少)、新型採血管準備装置・血液ガス分析装置の開発等により研究開発費が前期比124,105千円増の464,928千円となったことから販売費及び一般管理費は2,368,773千円(前期比5.9%増加)となり、営業利益は1,640,955千円(前期比28.3%減少)、経常利益は1,645,558千円(前期比26.9%減少)、当期純利益は1,197,035千円(前期比16.2%減少)となりました。

品目別の実績は、次のとおりであります。

## &lt;採血管準備装置&gt;

当事業年度における採血管準備装置の売上高は3,948,137千円(前期比7.0%減少)となりました。

検体情報の統括管理システム「RFID」を搭載した付加価値の高い製品ラインナップを取り揃え、採血室業務の効率化を実現する、最適な装置のシステムの組み合わせを提案する営業活動を展開してまいりましたが、国内の大病院を中心に、採血管準備装置の更新について慎重な姿勢があったこと等により、前期比において採血管準備装置の販売単価は低下、納入施設数は横ばいとなりました。

以上の結果、当事業年度の採血管準備装置の新規及び更新納入施設数は262施設(前期比同数)となりました。納入施設数の内訳は、国内新規案件48施設(前期比2施設増)、国内更新案件155施設(前期比4施設増)、海外新規案件59施設(前期比6施設減)となりました。

## &lt;検体検査装置&gt;

当事業年度における検体検査装置の売上高は544,202千円(前期比10.9%減少)となりました。

血液ガス分析装置「GASTAT-1800シリーズ」、「GASTAT-navi」を主力として、電解質分析装置では「STAX-5inspire」、「STAX-6」等、デスクトップ型とハンディ型を揃え、多様なニーズを捉えるべく販売活動をおこなってまいりましたが、他社との競争が激化する市場環境において、前期比での売上は減少となりました。

#### <消耗品等>

当事業年度における消耗品等の売上高は4,290,996千円(前期比4.4%増加)となりました。

採血管準備装置のユーザーへの営業訪問時、および技術サービス出向時を活用し、当社純正の消耗品の使用を促進する営業活動を継続した結果、装置の累計納入台数に比例して安定した売上を確保いたしました。

#### <その他>

当事業年度において、その他の売上高は249,084千円(前期比38.8%増加)となりました。

今後の経済動向につきましては、雇用、所得環境の改善を伴って国内景気の緩やかな回復基調が続くことが予想される一方、世界経済においては、新興国等における経済成長の鈍化が危惧されるなど、予断を許さない状況が続くものと予想されます。

当社では、国内市場における既存顧客の更新需要の捕捉、病院検査室のIT化に伴うオーダーリングシステム導入をきっかけとした採血管準備装置「BC・ROBO-8000RFID」、全自動尿分取装置「UA・ROBO-2000RFID」、RFID技術により輸血患者情報を管理・照合する「TRIPS Bt」システムの新規受注に取り組むとともに、周辺市場開拓として静脈可視化装置「Stat Vein:スタットペイン」、尿中酸化ストレスマーカー(8-OHdG)測定システム「ICR-001」、「Oh!尿!」シリーズ、「健康のトビラ」シリーズ、必須アミノ酸(リジン)測定装置「アミノサイン」などのヘルスケア製品群の販売にも注力いたします。海外市場においては、海外での大規模医療機器展示会への出展等を通じて採血管準備装置、検体検査装置の市場開拓をきめ細かくおこなってまいります。

## (2) 財政状態に関する分析

### ① 資産、負債及び純資産の状況

当事業年度の資産の期末残高は、前事業年度末に比べ347,329千円減少し、14,801,076千円となりました。

流動資産は、前事業年度末に比べ185,854千円減少し、13,341,745千円となりました。これは主に、販売代金の回収が順調に進んだことにより、現金及び預金が419,491千円増加、受取手形が292,196千円増加した一方で、売掛金が685,431千円減少したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ161,475千円減少し、1,459,330千円となりました。これは主に、消耗品用組立製造ラインの償却により、機械及び装置が29,764千円減少したことによるものであります。

当事業年度の負債の期末残高は、前事業年度に比べ850,139千円減少し、2,719,876千円となりました。

流動負債は、前事業年度末に比べて763,383千円減少し、2,498,597千円となりました。これは主に、買掛金が601,971千円減少したことによるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ86,756千円減少し、221,279千円となりました。これは主に、役員退職慰労引当金が149,459千円減少したことによるものであります。

当事業年度の純資産の期末残高は12,081,200千円となり、前事業年度末に比べて502,809千円増加しました。

これは主に、自己株式取得による自己株式が317,550千円が増加した一方で、別途積立金が500,000千円増加、繰越利益剰余金が320,359千円増加したことによるものであります。また、自己資本比率は、前事業年度末の76.4%から5.2ポイント増加し、81.6%となりました。

## ② キャッシュ・フローの状況

当事業年度における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の期末残高は、5,991,560千円（前期比299,122千円増加）となりました。

なお、当事業年度における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

## （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において、営業活動により得られた資金は1,075,474千円（前期比653,850千円減少）となりました。

これは主に、税引前当期純利益が1,803,045千円、売上債権の減少額が204,019千円であった一方、法人税等の支払額715,504千円、仕入債務の減少額601,971千円があったことによるものであります。

## （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において、投資活動により支出した資金は82,465千円（前期比57,624千円減少）となりました。

これは主に、定期預金の預入による支出120,368千円であった一方、保険積立金の払戻による収入40,386千円があったことによるものであります。

## （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において、財務活動により支出した資金は693,887千円（前期比404,853千円増加）となりました。

これは主に、自己株式の取得による支出317,550千円、配当金の支払額376,337千円があったことによるものであります。

なお、当社のキャッシュ・フロー関連指標の推移は以下のとおりであります。

	平成26年3月期	平成27年3月期	平成28年3月期
自己資本比率 (%)	78.11	76.43	81.62
時価ベースの自己資本比率 (%)	144.15	139.54	126.71
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (年)	0.00	0.00	0.00
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	1,557.8	19,057.8	11,702.28

(注) 1. 各指標の算式は以下の算式を使用しております。

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー／利払い

2. 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しております。

3. キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローを利用しております。

4. 有利子負債は、貸借対照表に計上されている負債のうち、利子を支払っている全ての負債を対象としています。

## (3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は、株主への利益還元を重要施策の一つと位置付けし、経営環境、業績に裏付けられた成果の配分と、内部留保額の決定をおこなうことを基本方針としております。

臨床検査医療費は、医療保険制度のもと、診療体系による支払い制度が基準となっております。そのため、医療保健財政の悪化が深刻な問題となっているわが国では、政府の医療費抑制政策が継続して遂行され、臨床検査市場は、厳しい状態となっております。

また、医療機器の研究開発においても、世界的な競争が激化しており、研究開発のさらなる活性化が必要とされております。

内部留保金につきましては、激変する社会の変化、医療の変化に迅速に対応すべく、不断の技術革新に努め、市場ニーズに対応した、新規性のある製品の研究開発やグローバルな事業戦略の展開を積極的におこなうために有効投資をし、収益の向上を図り株主に還元してまいりたいと考えております。

(4) 事業等のリスク

以下において、当社の事業展開その他に関するリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しております。また、必ずしもそのようなリスク要因に該当しない事項についても、投資者の投資判断上、重要であると考えられる事項については、投資者に対する積極的な情報開示の観点から以下に開示しております。なお、当社は、これらのリスク発生の可能性を認識したうえで、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針であります。

本項においては、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は決算短信提出日現在において判断したものであります。

1) わが国の医療保険財政が臨床検査市場に及ぼしている影響について

わが国の国民医療費は、平成25年度には40兆610億円、前年度に比べ8,493億円(2.2%)の増加となり、医療費の増大が国家財政上の大きな問題となっております。一方で、経済成長は低迷(国民所得は前年度比2.9%増加)を続けており、医療保険財政の悪化に歯止めをかけることが大きな課題となっております。

平成28年4月1日からの診療報酬改定では、ネット改定率はマイナス0.84%となり、医療機関の経営環境は、引き続き厳しい状況にあります。

2) 当社の事業戦略及び事業展開上内包するリスクについて

①採血管準備装置事業の市場規模、市場シェア及び同事業の新市場開拓について

採血管準備装置事業は、当社が市場ニーズを掘り起こし、製品化をおこなった事業であります。当社の総売上高のうち、採血管準備装置事業と関連消耗品の売上高合計が占める割合は、70%前後に達しております。

採血管準備装置の当社製品の累計設置施設は1,939施設(平成28年3月期末)であり、市場シェアも当社調べでは累計設置施設数ベース90%前後で推移しております。当社が主な導入のターゲットとしている病床数200床以上の大規模一般病院数を踏まえると、今後、新規の設置台数は伸び悩み若しくは減少に転ずる可能性があります。

このため、これまでターゲットとしてきた大規模一般病院に限らず、大規模病院の入院病棟や小規模病院をターゲットとした小型の装置開発・販売強化を図ってきております。さらに、治験業務等を受注する検査機関向けに直接販売の拡大を図っておりますが、小型製品については販売単価が低い一方、大型装置販売と同様の営業コストを要することから、潜在需要にもかかわらず、十分な採算を確保できない可能性があります。

②採血管準備装置事業における顧客との継続的関係強化について

当社は、主力事業である採血管準備装置事業を取巻く環境を踏まえ、累計設置台数の伸びに応じて、経常的に売上を見込める関連消耗品の売上や保守管理サービス収入により、既納入先との継続的取引の拡大を図っております。一方、これらの消耗品に対し、他メーカーが当社ハード製品に対応しうる非純正品を当社純正品に比し、廉価で販売する動きがあるため、当社は保守管理サービス業務の強化やハード新製品開発時における仕様変更等により、純正品の使用徹底を図っております。

また、採血管準備装置の税法耐用年数は5年ですが、第三・第四世代機が設置後10年以上経過し、その間の物理的陳腐化に加え、製品仕様の向上による旧世代機の技術的陳腐化により、当社ハード製品の更新需要の取込みをはかり、予想される純新規需要の減少を補完する計画であります。しかしながら、更新はユーザー側が決定しており、当該ユーザー側の事情により更新が後ろ倒しになる傾向があります。

③採血管装置事業における競合等の影響および対応策について

採血管準備装置事業については、当社製品の市場シェアは90%前後を占めておりますが、競合他社の新製品の仕様、販売価格等の動向を注意深く見守りながら、当社の新製品上市戦略に反映する必要があります。当社製品の販売単価は競合他社に比し、高めに設定されておりますが、機能や処理能力における相違、操作の簡素化、省スペース化、デザイン等のきめ細やかなユーザーニーズが製品へ反映されていることを如何に認知してもらうかということと共に、こうした継続的な製品開発・改良努力による製品差別化、ブランド構築・維持が販売価格維持の上で不可欠であります。しかしながら、ユーザーニーズも多様であり、競合他社の値引き攻勢による、当社の販売予定価額の引下げや受注断念等の販売上の影響を被る可能性があります。

また、医療施設全体の経営環境の悪化により、装置の新設の中止・延期やスペック・ダウン等の影響があり、当社は採血管準備装置単体に対し、自動搬送採血台、検体搬送システム、RFID機能等のオプション製品を付加し、パッケージとして販売することにより、ユーザーの多様なニーズの吸収による販売単価の拡大を図っておりますが、これらの成否によっては当社の業績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

更に、電子カルテやオーダリングシステム導入等、医療施設業務全体のIT化の一環で採血管準備装置が導入されるケースも多くなってきておりますが、医療施設側による採血管準備装置を制御する上位システムの導入遅延が散見されております。また、臨床検査業務の一層の外注・委託化が進展する中、医療施設側における同業務の委託先の決定遅延が生じる場合があります。これらの要因によっては、当社の採血管準備装置の年間販売計画にも影響を及ぼす可能性があります。

④採血管準備装置の売上に至るまでに通常長期に亘る営業期間を要することについて

主力製品である採血管準備装置の導入は、医療機関にとって大規模投資となるため、最終的な決定に至るまでは、2～3年程度の間の情報収集、内部での検討を要するケースが一般的であります。

このため、当社は可能な限り初期段階から医療機関とのコンタクトを持ち、当社製品の導入をおこなうことのメリットを理解して頂くことが、販売戦略上不可欠であります。

医療施設における外注委託を含めた臨床検査形態により、装置導入の意思決定プロセスが異なる場合があります。これらの形態変更は装置販売上のキーパーソンの変化に繋がるため、留意が必要であります。また、装置販売候補先における医療施設の人事異動等によるキーパーソンの交代は、有力販売見込先である当該医療施設への販売計画に重要な影響を及ぼす可能性があります。

3) 研究開発型企業として、研究開発期間と製品化に時間を要することについて

当社は、研究開発を重要な事業戦略としております。研究開発テーマの策定は市場ニーズの緊急度、技術的ハードル、他社の研究開発動向も踏まえて策定し、案件の開発期間は、基本的に2年として設定しております。しかしながら、技術的なハードルや市場に受け入れられる明確な商品コンセプトが設定できない等のケースが生じた場合には、開発の中断を余儀なくされ、現在実施中の研究開発及び今後の研究開発計画に影響を及ぼす可能性があります。

4) 製造委託を中心とする当社の生産体制について

採血管準備装置事業及び検体検査装置事業における装置の生産については、製造工程の大半を協力会社に委託しております。採血管準備装置BC・ROBO-888、BC・ROBO-8000RFIDについては、東芝産業機器システム株式会社と基本契約を締結の上、製造委託をおこない、ロット生産をおこなっております。

当社は、同社との長期に亘る取引関係及び同社には複数の協力会社があることから、同社を通じた安定的な製品供給が確保されると判断しておりますが、仮に製造委託先に重大な問題が発生した場合には、当社が製品の供給を受けられなくなる可能性があります。

当社は、製造委託先との連携及び受入検査の強化を通じて、製品の品質確保を図っておりますが、採血管準備装置は、法制度上医療機器ではないものの医療関連機器であり、万が一製品の不具合が生じた場合、当社製品に対する信用失墜等に直面する可能性があります。

5) 検体検査装置事業及び新規事業分野における長期的事業戦略について

長期的視点を見据え、採血管準備装置事業及びその関連事業以外の事業育成の視点も重要になってきております。現在、売上に占める比率では大きくはないものの検体検査装置事業における研究開発に注力しておりますが、検体検査装置事業においては採血管準備装置事業に比し、海外メーカーを含め競争力のある既存の競合先も多く、また非医療分野への参入についても当社ブランドの構築、販路の開拓等の課題も多く、これらの分野が当事業の主力事業若しくは重要な柱になるかどうかは現段階では不透明であります。

6) 海外への輸出について

海外への輸出については、展示会等でコンタクトのあった販売先と販売独占契約を締結の上、L/C発行等による直接取引、若しくは国内商社経由による販売をおこなっております。

採血管準備装置については、代理店を通じて輸出もおこなっており、輸出先としては、日本と同様の採血システムを採っているアジア、欧州、中南米地域等であります。平成28年3月期における海外売上高は799,325千円(前期比11.3%減少)、総売上高に占める海外売上高の割合は約8.8%となっており、今後の海外展開によっては、為替リスク、海外代理店との契約、保守管理上のリスク等に直面する可能性があります。

7) 主な特許権等について

当社は、採血管準備装置に関連するバーコードラベル自動貼付・移送等にかかる特許権、及び検体検査装置事業に関連する特許権を登録済みであります。これらの登録済特許権は、事業実施にあたり、競合他社等から当社の知的財産権を保護するために必要不可欠なものであります。当社が登録済の特許権と類似の特許権を競合他社が保有しているケースもあるため、製品開発にあたっては、訴訟対策もあり、今後新たに研究開発をおこなったものについての知的財産権保護と併せ、これらの動向にも十分留意していくことが不可欠となっております。

8) 下期への業績偏重について

当社の主力事業である採血管準備装置事業等の装置関係の売上は、その主要納入先である医療施設からの受注及び納入要請タイミングとの関係上、下期、特に第4四半期に集中する傾向があります。また、医療施設側の設置する採血管準備装置を制御する上位システムの導入が当初想定した時期よりも遅延した場合には、翌期に売上が計上されることになり、一定期間毎に区切った場合の当社の経営成績に、期間毎の変動が生じる可能性があります。一方、これらの装置を稼動するための試薬、ラベル等の消耗品については恒常的に需要が発生いたします。

9) 法的規制について

当社は、各種の医療機器及び体外診断用医薬品の関連製品の製造、販売をおこなっております。医療機器及び体外診断用医薬品の製造販売業と製造業は、薬事法(昭和35年8月10日 法律第145号)をはじめとして、医療機器及び体外診断用医薬品の製造管理及び品質管理の基準に関する省令(QMS省令: Quality Management System:平成16年12月17日 厚生労働省令第169号)及びそれに関連する各種法令により規制を受けております。



薬事法は、医療機器を含め、それらの品質、有効性及び安全性の確保のために必要な規制をおこなっており、また許可は“5年をくだらない政令で定める期間ごとに、その更新を受けること”とされており、QMSは、品質の良い医療機器等を供給するために、製造時の管理、遵守事項を定めております。

当社は、薬事法やQMS省令に基づく許可を受け、(第2種医療機器製造販売業許可番号 14B2X00034、有効期間平成25年9月11日から平成30年9月10日まで；医療機器製造業許可番号 14BZ000484、有効期間平成24年2月24日から平成29年2月23日まで；14BZ005014、有効期間平成25年9月11日から平成30年9月10日まで；体外診断用医薬品製造業許可番号 14E1X80023、有効期間平成28年7月18日から平成33年7月17日まで；体外診断用医薬品製造業許可番号 14EZ280108、有効期間平成26年11月25日から平成29年9月17日まで；医薬品製造業許可番号14AZ200108 有効期間平成24年9月18日から平成29年9月17日まで)厚生労働省及び神奈川県監督を受けております。

10) 採血管準備装置事業及び検体検査装置事業等の当社製品の販売経路及び最終販売先について

両事業を通して、当社の最大の最終販売先は医療施設であります。主に医薬品・医療機器卸会社経由で販売をおこなっております。これは、最終販売先である医療施設が機材調達先の絞込みをおこなっており、既存取引先である医療卸会社経由での取引を望んでいるケースが多いこと、また卸会社経由での顧客ニーズ情報の提供を受け、当該卸会社を活用すること等の当社側の販売戦略上の要因によるものであります。この他、医療メーカーの製品と当社製品をセットで販売する際には、当該医療メーカー経由での取引も最近は増加傾向にあります。

主要最終販売先として医療施設の他、検査機関が挙げられます。医療施設による臨床検査業務の外注・委託化の進展に伴い、医療施設に設置する当社装置製品の直接かつ最終販売先として検査機関が一定割合を占めるようになったためであります。検査機関は様々な医療機器等に対するノウハウを背景に、医療施設の機器選定に対して一定の影響力を有していることから、最終販売先如何にかかわらず検査機関に対しても販売戦略上、十分なフォローアップが必要となっております。

海外については、展示会等でコンタクトのあった販売先と販売独占契約を締結の上、L/C発行等による直接取引、若しくは国内商社経由による販売をおこなっております。

非医療関連事業であるその他の事業(糖度酸度分析装置、養液測定装置等)については、総売上に占める比率は大きくはありませんが、農業試験場、J A、大学等へ販売をおこなっております。

## 2. 企業集団の状況

当社は、臨床検査用分析装置及び医療機器の研究開発、製造、販売、輸出及び、これら装置で使用する消耗品の製造、販売を主たる業務とし、さらにこれら装置の保守サービス等の事業活動を展開しております。

販売系統としましては、当社が直接国内・海外ユーザーへ製品を販売する場合と、販売業者を経由し国内・海外ユーザーへ製品を販売する場合があります。なお、子会社・関連会社はありません。

当社の製品は4つに分類でき、その内容は下記のとおりであります。

### (1) 採血管準備装置

採血管準備装置とは、採血・採尿検査に関する受付業務から採血・採尿検査準備作業を自動でおこなう装置であります。採血管準備装置には、採血管準備装置とその周辺機器である採血・採尿自動受付機、採血台搬送表示システム、自動検体仕分け装置、全自動尿分析・分取装置、一般検査前処理装置、PIS患者認識システム (Patient Identification System) 及びアンプルラベラーがあります。

採血管準備装置は、患者の待ち時間短縮、看護師の採血業務支援ならびに、検体の取り違え事故防止が可能であります。さらに採血・採尿自動受付機、採血台搬送表示システム、簡易採血管供給部といった各種周辺機器を付加することで、それぞれの医療施設に適した採血管準備のトータルシステムを提供することが可能であります。また、PIS患者認識システムは、バーコードと携帯端末の活用で患者の誤認、輸血ミス等の医療事故を防ぎ、正確な医療業務の遂行を支援するシステムであります。

### (2) 検体検査装置

検体検査装置とは、医療施設において血液等の検体を測定し、値を数値化することにより、診断の目安とする装置であります。当社で販売している検体検査装置は、血液中の酸素や炭酸ガス分圧及び、pH等を測定する血液ガス分析装置・ハンディ型血液ガス分析装置、電解質を分析する専用の電解質分析装置、赤血球の凝縮による血球の沈降度を測定する赤血球沈降速度測定機、DNAの酸化的損傷ストレスマーカーである尿中8-hydroxy-deoxyguanosine (8-OHdG)を測定する尿中酸化ストレスマーカー測定システム等であります。

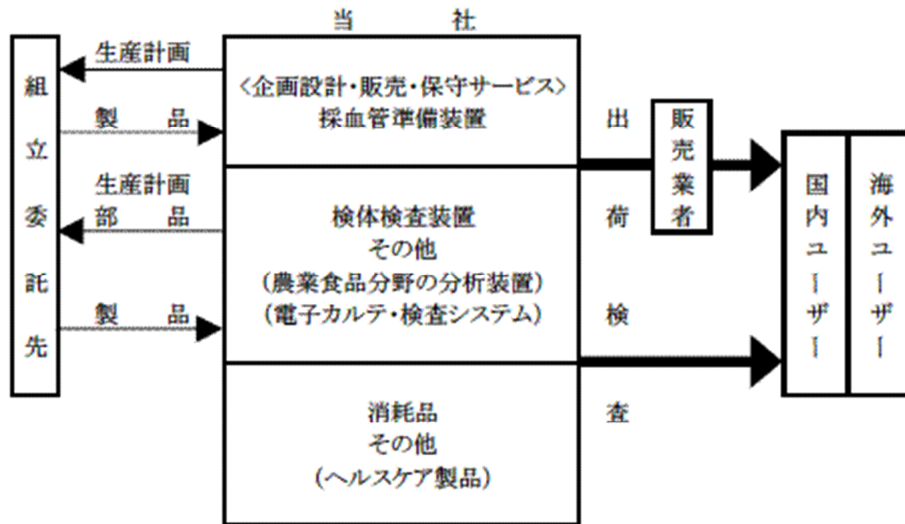
### (3) 消耗品等

消耗品としては、採血管準備装置、検体検査装置、及びその他に含まれる分析装置で検査時に使用する採血管、ラベル、日常校正イオン電極用常用標準血清、センサーカード、ガストロール、キャリブレーション用パック、ハルンカップ等ありますが、その他に採血管準備装置及び検体検査装置の保守も含めております。また、一般個人が尿で健康チェックをおこなうセルフモニタリング用ヘルスケア製品の販売も含まれます。

### (4) その他

その他セグメントには、医療施設向け電子カルテ・検査システム、農業・食品分野で使用するハンディ型分析装置を分類しております。医療施設向け電子カルテ・検査システムは、中小規模病院を中心にシステムの受注を受けております。農業・食品分野で使用するハンディ型分析装置には、植物中の糖度・酸度や主要肥料成分を測定する糖度酸度分析装置・養液測定装置があり、農業試験場、J A、大学等へ販売しております。

当社事業の系統図は次のとおりであります。



採血管準備装置、検体検査装置及びその他装置の研究開発・設計は社内でおこない、製造工程を社外協力会社へ委託しております。組立委託先から製品を受入検査基準に従い受入した後、社内での最終調整を経て、出荷検査基準を満たした製品を本社より出荷しております。このような体制を構築することにより、研究開発や販売等に経営資源を集中することが可能となっております。

消耗品については受注見込量を本社にて調査・調整・包装あるいは製造をおこなっております。これら消耗品の品質検査は製造工程と出荷前の2段階でおこない、製品の品質確保を図っております。万一、出荷後の不具合が見つかった場合には、同一製造ロットを全て回収し交換をおこなう体制を整えております。

ヘルスケア製品につきましては、研究開発および生産を社内でおこなっております。個人の方々の、健康のセルフモニタリングに役立つ製品を、社内研究開発部門で開発し、本社にて製造工程で品質検査をおこないながら、受注見込量の生産をおこなっております。

### 3. 経営方針

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社は創業以来、臨床検査用分析装置及び医療機器の研究開発、製造、販売において、従来の医療機器とは一線を画すオリジナリティの高い知的価値のある製品・サービスを提供しております。医療現場のニーズを掘り起し開発した、採血・採尿検査準備を自動化する「採血管準備装置」は、全国の医療施設への納入実績があり、臨床検査分野で新しい市場として確立するに至っております。

- ・信頼性・品質の確保

高品質、高性能で市場のニーズに対応した製品を低コストで提供し、お客様から信頼され選ばれる企業を目指します。

- ・企業の発展

自立と連携、チャレンジ精神で、より一層医療施設の経営効率化、リスクマネジメントの強化に貢献でき、かつ患者様の負担を軽減する検体検査装置及び医療ソリューションシステムを提供し、信頼される企業を従業員全員で築きます。

- ・開発技術の創造

新しい価値をもった独創的新製品を開発し、新たな市場の開拓を目指します。

- ・株主価値の向上

業績の向上を目指し、増収やコスト削減への取組みは勿論、競争優位性の高い分野へ経営資源の集中と効率的な設備投資をおこない、株主の期待に応える企業活動を推進いたします。また、適時公正なIR活動をおこない、当社の企業情報を配信し、信頼関係の構築に努めます。

#### (2) 目標とする経営指標

当社では、新しい価値をもった新製品の研究開発と市場のニーズに対応した製品の提供を継続的にこなす事により事業の継続性及び株主への安定配当を実現するため、事業規模の拡大という面から売上高の伸張率で毎事業年度12.5%~15.0%の安定成長、収益性の確保という面から売上高経常利益率20%の達成に努めております。

今後とも、利益の伴った売上高の拡大を軸とした更なる業績の向上を通じて、株主の皆様のご期待に添えられるよう努めてまいります。

#### (3) 中長期的な会社の経営戦略

当社は得意分野における事業強化を推進するとともに、新しいコンセプトの製品開発による事業のグローバル化を図り、独創的トップ企業を目指してまいります。

##### 1) 得意分野における事業強化ー国内主力市場における市場開拓の積極化

主力製品「採血管準備装置」において、従来、「ベッド数200床以上の病院」(約2,800施設)を主力市場としておりましたが、今後は、市場占有率が90%近い当社の実績を踏まえ、同分野におけるより一層の事業強化を目指し、次のターゲット市場として、「検査センター」(約1,000施設)、「健診センター」(約2,000施設)、「治験実施機関」(約600施設)等の医療施設を新たに視野に入れた市場開拓を推進してまいります。

##### 2) 病院マーケットの深耕ー採血管準備装置の汎用シリーズ開発による中規模病院への拡販

病院の電子カルテ化が進行しつつある中、「採血管準備装置」システムへの関心がますます高まっております。

そのような中、中規模クラスの病院からの要請にも対応するため、導入コストを抑えられる汎用シリーズを開発し、現在、積極的な拡販を推進しております。

また、中規模クラスの病院(ベッド数50~200床)は、全国に約5,000施設を数え、この汎用シリーズの開発により、当社の販売ターゲットは更に拡大しております。今後、汎用シリーズの品揃え強化を図り、採血管準備装置の中規模病院における市場占有率の更なる向上を目指してまいります。

##### 3) 新たな市場ニーズへの対応ー新しいコンセプトに基づく製品開発によるPOCT分野への進出

ベッドサイドでの治療の重要性が高まる中、簡易検査「POCT」(注)が定着しつつあります。

今後も当社の得意分野であるセンサー開発技術を生かし、健康管理、遠隔医療、高齢者向けの在宅医療などへの対応を考慮したヘルスケア製品の研究開発に注力し、世界に通用するPOCT製品の上市を図っていき新たな収益の柱となるよう努めてまいります。

##### 4) 事業のグローバル化を推進ーグローバルシェア拡大と社内体制の強化

医療分野における国際協調路線の進展に伴って、医療機器市場の国際化も進行しております。こうした環境の中、グローバル市場におけるシェア拡大を目指し、国際的な販売網の確立と、国際的に通用する人材育成をはじめとする社内体制の拡充に努めてまいります。

5) 農業・食品分野における事業展開

農業・食品分野においても、コスト管理と合理化が進行しており、特に農業分野においては、生産者自身で簡単に測定できる低価格で、高性能のハンディ型分析装置の需要が急速に高まっております。当社では、医療機器分野で培ってきたセンサー技術力を活かし、農業・食品分野向けの装置の販売に取り組んでおります。

(注) POCT (Point Of Care Testing)

診察・看護の現場で医療スタッフが実施する簡易検査ならびに患者自身が在宅で実施する自己検査のことです。

(4) 会社の対処すべき課題

平成28年3月期の決算監査において、監査法人から、当社の売上取引に関して不適切な会計処理がなされている疑義の指摘を受けて、当社は、平成28年4月28日に本件疑義に係る事実解明及び会計処理の適正性に係る事実解明を目的として第三者委員会を設置しました。平成28年6月23日に、第三者委員会による調査報告書を受領し検討した結果、不適切な会計処理が行われたことが判明したため、過年度の売上高の取り消し等の訂正を行うことといたしました。

この不適切な会計処理は、役職員におけるコンプライアンスの意識が希薄であったこと、内部統制・ガバナンス体制の不備に起因するものと考えられます。

当社といたしましては、財務報告に係る内部統制の重要性を認識し、財務報告に係る内部統制を是正するため、第三者委員会からの提言を踏まえ、以下のとおり再発防止策を講じ、内部統制の改善を図ってまいります。

①コンプライアンスに関する意識を高める

上場会社として、公正な証券市場の確立に不可欠な適正な開示をおこなうことの責務について認識するため、全社員を対象に研修を行い、コンプライアンス重視の経営方針を確認いたしました。

②ガバナンス遵守体制の構築

製品が納品されていない時点で売上が計上されるという極めて特殊な取引、およびこれと類似の取引や不適切な会計処理が再発しないために、現経営陣と一定の緊張感を保った上で厳しく業務執行部門を監督できる、企業経理財務の実務に深い経験を持った取締役候補者を採用し、本株主総会において取締役として選任いただく予定です。これにより、適切な会計処理の徹底を図ります。

更には社外取締役として、企業法務等について深い見識を有し、過去に当社との業務上の接点が無い弁護士を、この株主総会において選任することをお願いしております。

また、社内で何らかの不適切な処理の疑いがあった場合に通報をする窓口を外部にも設け、適切な対応をとれるようにいたしました。

③内部統制制度の再構築

社員教育の徹底をします。社員に、製品の売上の認識および製品の検収の意義にかかわる理解の不足があったことが、今回の問題発生と発見できなかったことの一因となっていると考えられるため、全社員を対象に売上認識、管理および会計等に関する教育を行いました。この教育は、取締役等役員に対しても別途に実施いたしました。

また、取引について、適正な会計処理を行うために必要な証憑書類を確認し、整備することができる体制を設けて運用することとします。

以上の施策により、社内においてコーポレート・ガバナンスの意義と重要性を改めて共有し、経営者層のみならず従業員一人ひとりが、法令はもとより社会規範の遵守、徹底に努めるべく、ガバナンス体制の建て直しを図ってまいります。

次に、医療業界において当社が対処すべき課題についてご説明いたします。

少子化・高齢化の速度が速いわが国では、医療費の増大が国家財政上の大きな負担となり、医療保険財政の悪化に対応するための医療財政の緊縮化、医療費適正化政策の維持・強化等、政府の医療費抑制政策が継続して推進されております。

臨床検査医療費は、医療保険制度のもと、診療体系による支払制度が基準となっておりますため、制度改革論議のもとにおいて恒常的に2年毎におこなわれる診療報酬の改定は、医療機関の収入に影響し、必然的に当社が主要なターゲットとしている臨床検査市場全体へと響くことが予想されます。

また医療施設では、臨床検査装置の自動化、ブランチラボ(注1)やFMS(注2)方式による検査の外注・委託の増加、医療施設の統廃合が引続きおこなわれ、今後益々の値下げ要請及びメーカー間の競争が激しくなると予想されます。

医療施設におけるコスト削減及び効率化がおこなわれていく一方、医療の安全への関心の高まり、質の向上、QOL(注3)を重視する風潮は強まり、病気の診断治療から予防へ、治療技術からQOL重視へと医療の質が転機を迎えつつある現在、医療機器メーカーについても新たな視座に立ち、その有り方を検討することが必要とされております。

このような見通しの中、医療財政やQOLの観点からも、長期療養を要する生活習慣病やストレス診断等のセルフケア、プライマリーケアを実施できるよう、今後も保険点数の影響に左右されず付加価値を付けたPOCT分野の検体検査装置やヘルスケア製品の研究開発に引き続き注力してまいります。

政府の推進する医療施設業務のIT化による電子カルテやオーダーリングシステムの普及に伴い、需要の高まりがある採血管準備装置については新製品の積極的な営業活動を展開すると共に、採血管準備装置導入の後押しとなる電子カルテ・検査システムの販売と併せて、更なるシェアの拡大に努めてまいります。

医療機器産業では、品質・コスト面において世界的な競争激化が予見されるため、バイオ技術や新素材の利用をおこない、新しい技術を医療機器へ応用した、新規性のあるお客様に選ばれる製品の早期製品化に努めてまいります。

また、経営の透明性及び効率の向上、経営資源の選択と集中及び、経営環境の変化に迅速に対応できる意思決定機関の確立をコーポレート・ガバナンスの基本と考え、企業の成長、企業価値の最大化を目指すとともに、より充実したコーポレート・ガバナンスの確立に努めてまいります。

コアコンプライアンスにつきましては、経営者層だけでなく、従業員一人ひとりが、法令はもとより社会規範の遵守、徹底に努め業務をおこなってまいります。

(注1) ブランチャラボ

受託先(検査センター)が病院内のスペースに新たに検査室を作るというものであります。

(注2) FMS (Facility Managed System) 方式

臨床検査を担当する技師及びそのスペースは病院側から提供されるが、分析装置などの設備、試薬や消耗品等のランニングコスト及び、検査部運営のためのノウハウは受託先の検査センターが負担するシステムであります。

(注3) QOL (Quality Of life)

人間が日常生活上で必要とされている満足感、幸福感、安定感を規定している様々な要因のことであります。

#### 4. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は、財務諸表の期間比較、企業間比較の可能性を考慮し、会計基準につきましては日本基準を適用しております。

なお、IFRS (国際財務報告基準) の適用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

## 5. 財務諸表

## (1) 貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,539,607	7,959,098
受取手形	694,260	986,457
電子記録債権	—	189,215
売掛金	2,733,099	2,047,668
商品及び製品	2,247,667	1,752,115
仕掛品	133,675	189,203
原材料及び貯蔵品	73,034	64,702
前払費用	11,447	10,901
繰延税金資産	101,369	137,476
その他	1,114	5,407
貸倒引当金	△7,678	△500
流動資産合計	13,527,600	13,341,745
固定資産		
有形固定資産		
建物	892,800	893,704
減価償却累計額	△464,346	△490,831
建物(純額)	428,453	402,872
構築物	4,077	4,077
減価償却累計額	△3,292	△3,391
構築物(純額)	785	685
機械及び装置	158,650	158,650
減価償却累計額	△50,824	△80,589
機械及び装置(純額)	107,825	78,060
工具、器具及び備品	101,426	102,326
減価償却累計額	△69,654	△79,311
工具、器具及び備品(純額)	31,772	23,015
土地	787,326	787,326
有形固定資産合計	1,356,163	1,291,961
無形固定資産		
電話加入権	1,177	1,177
特許権	1,350	675
商標権	666	466
ソフトウェア	27,814	19,969
無形固定資産合計	31,008	22,289
投資その他の資産		
出資金	7,510	7,510
繰延税金資産	96,795	43,416
その他	129,328	94,153
投資その他の資産合計	233,633	145,079
固定資産合計	1,620,806	1,459,330
資産合計	15,148,406	14,801,076

(単位:千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,175,913	1,573,942
未払金	84,388	236,916
未払費用	59,129	52,539
未払法人税等	545,443	420,591
未払消費税等	169,453	31,628
前受金	69,391	61,830
預り金	9,005	9,519
賞与引当金	113,650	110,282
役員賞与引当金	34,500	—
その他	1,104	1,347
流動負債合計	3,261,980	2,498,597
固定負債		
役員退職慰労引当金	250,085	100,625
製品保証引当金	40,787	33,919
その他	17,162	86,734
固定負債合計	308,035	221,279
負債合計	3,570,015	2,719,876
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,069,800	1,069,800
資本剰余金		
資本準備金	967,926	967,926
資本剰余金合計	967,926	967,926
利益剰余金		
利益準備金	18,483	18,483
その他利益剰余金		
別途積立金	6,300,000	6,800,000
繰越利益剰余金	3,222,398	3,542,757
利益剰余金合計	9,540,881	10,361,241
自己株式	△217	△317,767
株主資本合計	11,578,390	12,081,200
純資産合計	11,578,390	12,081,200
負債純資産合計	15,148,406	14,801,076



## (2) 損益計算書

(単位:千円)

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
売上高	9,145,139	9,032,422
売上原価		
製品期首たな卸高	2,022,209	2,247,667
当期製品製造原価	4,845,940	4,527,140
合計	6,868,150	6,774,808
製品期末たな卸高	2,247,667	1,752,115
製品売上原価	4,620,482	5,022,693
売上総利益	4,524,657	4,009,728
販売費及び一般管理費	2,236,557	2,368,773
営業利益	2,288,099	1,640,955
営業外収益		
受取利息	1,339	1,576
受取配当金	1,575	1,629
保険返戻金	—	1,079
その他	956	408
営業外収益合計	3,871	4,694
営業外費用		
支払利息	90	91
保険解約損	736	—
消費税差額	41,437	—
その他	42	—
営業外費用合計	42,307	91
経常利益	2,249,664	1,645,558
特別利益		
役員退職慰労引当金戻入額	—	157,487
特別利益合計	—	157,487
税引前当期純利益	2,249,664	1,803,045
法人税、住民税及び事業税	810,194	588,737
法人税等調整額	10,336	17,272
法人税等合計	820,530	606,010
当期純利益	1,429,133	1,197,035

## 【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)		当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	
		金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
I 材料費	※	4,577,841	93.6	4,277,894	93.3
II 労務費		215,222	4.4	223,450	4.9
III 経費		95,793	2.0	81,324	1.8
当期総製造費用		4,888,857	100.0	4,582,668	100.0
期首仕掛品たな卸高		90,757		133,675	
合計		4,979,615		4,716,344	
期末仕掛品たな卸高		133,675		189,203	
当期製品製造原価		4,845,940		4,527,140	

(注) 原価計算の方法は、ロット別個別原価計算であります。

※主な内訳は以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
減価償却費 (千円)	61,786	48,107

## (3) 株主資本等変動計算書

前事業年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計
		資本準備金	資本剰余金合計		別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	1,069,800	967,926	967,926	18,483	5,800,000	2,582,342	8,400,826
当期変動額							
剰余金の配当						△289,078	△289,078
当期純利益						1,429,133	1,429,133
別途積立金の積立					500,000	△500,000	—
自己株式の取得							
当期変動額合計	—	—	—	—	500,000	640,055	1,140,055
当期末残高	1,069,800	967,926	967,926	18,483	6,300,000	3,222,398	9,540,881

	株主資本		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	
当期首残高	△122	10,438,429	10,438,429
当期変動額			
剰余金の配当		△289,078	△289,078
当期純利益		1,429,133	1,429,133
別途積立金の積立		—	—
自己株式の取得	△94	△94	△94
当期変動額合計	△94	1,139,961	1,139,961
当期末残高	△217	11,578,390	11,578,390

当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位: 千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	1,069,800	967,926	967,926	18,483	6,300,000	3,222,398	9,540,881
当期変動額							
剰余金の配当						△376,675	△376,675
当期純利益						1,197,035	1,197,035
別途積立金の積立					500,000	△500,000	—
自己株式の取得							
当期変動額合計	—	—	—	—	500,000	320,359	820,359
当期末残高	1,069,800	967,926	967,926	18,483	6,800,000	3,542,757	10,361,241

	株主資本		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	
当期首残高	△217	11,578,390	11,578,390
当期変動額			
剰余金の配当		△376,675	△376,675
当期純利益		1,197,035	1,197,035
別途積立金の積立		—	—
自己株式の取得	△317,550	△317,550	△317,550
当期変動額合計	△317,550	502,809	502,809
当期末残高	△317,767	12,081,200	12,081,200

## (4) キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前当期純利益	2,249,664	1,803,045
減価償却費	90,276	74,726
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	29,400	△149,459
賞与引当金の増減額 (△は減少)	1,650	△3,368
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	5,500	△34,500
製品保証引当金の増減額 (△は減少)	△15,312	△6,868
受取利息及び受取配当金	△2,915	△3,206
保険解約損益 (△は益)	736	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△1,963	△7,178
支払利息	90	91
売上債権の増減額 (△は増加)	△172,557	204,019
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△273,290	448,356
仕入債務の増減額 (△は減少)	628,739	△601,971
その他の資産の増減額 (△は増加)	1,493	△8,279
その他の負債の増減額 (△は減少)	45,898	72,457
小計	2,587,409	1,787,865
利息及び配当金の受取額	2,915	3,206
利息の支払額	△90	△91
法人税等の支払額	△860,908	△715,504
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,729,325	1,075,474
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△120,342	△120,368
差入保証金の差入による支出	△3,041	△4,145
差入保証金の回収による収入	2,262	3,467
有形固定資産の取得による支出	△17,666	△1,804
無形固定資産の取得による支出	△4,025	—
保険積立金の解約による収入	2,724	—
保険積立金の払戻による収入	—	40,386
投資活動によるキャッシュ・フロー	△140,090	△82,465
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	△94	△317,550
配当金の支払額	△288,938	△376,337
財務活動によるキャッシュ・フロー	△289,033	△693,887
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,300,201	299,122
現金及び現金同等物の期首残高	4,392,235	5,692,437
現金及び現金同等物の期末残高	5,692,437	5,991,560

## (5) 財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

## (重要な会計方針)

## 1. たな卸資産の評価基準及び評価方法

製品、仕掛品及び原材料

月次総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。

## 2. 固定資産の減価償却の方法

## (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。

ただし平成10年4月1日以降に取得した建物（建物付属設備を除く）については定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 : 8～38年

構築物 : 15～20年

機械及び装置 : 7～12年

工具、器具及び備品 : 2～15年

## (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

ソフトウェア

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年以内）に基づく定額法を採用しております。

商標権

商標権については、定額法（償却期間10年）を採用しております。

特許権

特許権については、定額法（償却期間8年）を採用しております。

## 3. 引当金の計上基準

## (1) 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

## (2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

## (3) 役員賞与引当金

役員賞与の支給に備えるため、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。

## (4) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支給に備えるため、当社内規に基づく期末要支給額を計上しております。

## (5) 製品保証引当金

販売済み製品の無償でおこなう消耗部品の取替費用に充てるため、販売台数を基準として過去の実績率により算定した額を計上しております。

## 4. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

## 5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

## (貸借対照表関係)

## ※ 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
建物	107,996千円	—千円
構築物	291	—
土地	389,742	—
計	498,030	—

上記資産に銀行取引に係る根抵当権が設定されておりますが、担保付債務はありません。

## (損益計算書関係)

※1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
一千円	190,369千円

※2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度25.5%、当事業年度23.5%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度74.5%、当事業年度76.5%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
給与手当	742,849千円	740,064千円
役員報酬	113,011	113,233
賞与引当金繰入額	81,303	78,075
役員賞与引当金繰入額	34,500	—
役員退職慰労引当金繰入額	29,400	8,027
福利厚生費	133,333	126,546
荷造運賃	157,447	145,461
旅費交通費	123,611	135,251
減価償却費	15,488	14,818
支払手数料	127,577	126,729
研究開発費	340,823	464,928
貸倒引当金繰入額	△1,963	△7,178

※3 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
340,823千円	464,928千円

## (株主資本等変動計算書関係)

前事業年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

## 1. 発行済株式の種類及び総数ならびに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数 (株)	当事業年度増加株式数 (株)	当事業年度減少株式数 (株)	当事業年度末株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	8,760,000	—	—	8,760,000
合計	8,760,000	—	—	8,760,000
自己株式				
普通株式 (注)	58	41	—	99
合計	58	41	—	99

(注) 普通株式の自己株式の増加41株については、単元未満株式の買取によるものであります。

## 2. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額 (円)	基準日	効力発生日
平成26年6月25日 定時株主総会	普通株式	289,078	33	平成26年3月31日	平成26年6月26日

## (2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額 (円)	基準日	効力発生日
平成27年6月25日 定時株主総会	普通株式	376,675	利益剰余金	43	平成27年3月31日	平成27年6月26日

当事業年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

## 1. 発行済株式の種類及び総数ならびに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株 式数 (株)	当事業年度増加株 式数 (株)	当事業年度減少株 式数 (株)	当事業年度末株式 数 (株)
発行済株式				
普通株式	8,760,000	—	—	8,760,000
合計	8,760,000	—	—	8,760,000
自己株式				
普通株式 (注)	99	150,000	—	150,099
合計	99	150,000	—	150,099

(注) 普通株式の自己株式の増加150,000株については、取締役会決議に基づく東京証券取引所における自己株式立会外買付取引 (ToSTNeT-3) による取得であります。

## 2. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額 (円)	基準日	効力発生日
平成27年6月25日 定時株主総会	普通株式	376,675	43	平成27年3月31日	平成27年6月26日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの  
該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
現金及び預金勘定	7,539,607千円	7,959,098千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△1,847,169	△1,967,538
現金及び現金同等物	5,692,437	5,991,560

(退職給付関係)

## ① 採用している退職給付制度の概要

当社の退職給付制度は、中小企業退職金共済法に基づく中小企業退職金共済制度と生命保険会社の企業年金を併用しております。

## ② 退職給付費用

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
当期に費用認識した拠出額	6,676千円	7,019千円



(税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
繰延税金資産 (流動)		
未払事業税	36,415千円	22,641千円
賞与引当金	37,504	33,966
貸倒引当金	2,533	154
棚卸資産評価損	18,204	75,993
その他	6,711	4,721
繰延税金資産 (流動) 小計	101,369	137,476
繰延税金資産 (固定)		
製品保証引当金	13,301	10,431
役員退職慰労引当金	81,571	30,797
その他	1,922	2,187
繰延税金資産 (固定) 小計	96,795	43,416
繰延税金資産合計	198,165	180,892

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前事業年度 (平成27年3月31日)

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

当事業年度 (平成28年3月31日)

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

## 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成28年法律第15号)及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」(平成28年法律第13号)が平成28年3月29日に国会で成立し、平成28年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は前事業年度の計算において使用した32.3%から平成28年4月1日に開始する事業年度及び平成29年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については30.8%に、平成30年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については、30.6%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額は9,039千円減少し、法人税等調整額が同額増加しております。

(持分法損益等)

前事業年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前事業年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

## 1. 報告セグメントの概要

当社は、医療機器およびこれら装置で使用する消耗品の製造販売を主たる事業とする単一セグメントであります。

当事業年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

## 1. 報告セグメントの概要

当社は、医療機器およびこれら装置で使用する消耗品の製造販売を主たる事業とする単一セグメントであります。

## 【関連情報】

前事業年度(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

## 1. 製品及びサービスごとの情報

当社は、単一セグメントのため、セグメント情報に代えて、製品群別の販売実績を記載しております。  
(単位：千円)

	採血管準備装置	検体検査装置	消耗品等	その他	合計
外部顧客への売上高	4,243,907	610,870	4,110,951	179,410	9,145,139

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 売上高

(単位：千円)

日本	ヨーロッパ	中南米	アジア	海外その他	合計
8,243,929	107,821	120,049	648,224	25,114	9,145,139

## (2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載はありません。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、特定の顧客への売上高が損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載をおこなっておりません。

当事業年度(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

## 1. 製品及びサービスごとの情報

当社は、単一セグメントのため、セグメント情報に代えて、製品群別の販売実績を記載しております。  
(単位：千円)

	採血管準備装置	検体検査装置	消耗品等	その他	合計
外部顧客への売上高	3,948,137	544,202	4,290,996	249,084	9,032,422

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 売上高

(単位：千円)

日本	ヨーロッパ	中南米	アジア	海外その他	合計
8,233,096	171,831	141,400	457,132	28,961	9,032,422

## (2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載はありません。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、特定の顧客への売上高が損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載をおこなっておりません。

## (関連当事者情報)

前事業年度(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

## 関連当事者との取引

財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
主要株主(個人)及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	(株)オートニクス	埼玉県志木市	30,000	製造業	(被所有)直接 3.1	製造委託等	製品等の購入(注2)	608,728	買掛金	262,082
									未払金	972
						製品販売等	製品等の販売(注3)	17,403	売掛金	8,440

- (注) 1. 上記取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。  
 2. 製品等の購入については、提示された見積りを他社より入手した見積りと比較の上交渉により決定しており、他の取引先と同様の条件で製品等を購入しております。  
 3. 製品等の販売については、市場価格を勘案し、価格交渉の上で決定しております。

当事業年度(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

## 関連当事者との取引

財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
主要株主(個人)及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	(株)オートニクス	埼玉県志木市	30,000	製造業	(被所有)直接 3.1	製造委託等	製品等の購入(注2)	458,851	買掛金	182,756
							研究開発業務の委託		製品開発業務の委託(注2)	4,807
						製品販売等	製品等の販売(注3)	11,385	売掛金	270

- (注) 1. 上記取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。  
 2. 製品等の購入、及び研究開発業務の委託については、提示された見積りを他社より入手した見積りと比較の上交渉により決定しており、他の取引先と同様の条件で製品等を購入、及び研究開発業務の委託をしております。  
 3. 製品等の販売については、市場価格を勘案し、価格交渉の上で決定しております。

## (1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
1株当たり純資産額	1,321.75円	1,403.18円
1株当たり当期純利益金額	163.14円	136.78円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
当期純利益 (千円)	1,429,133	1,197,035
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益 (千円)	1,429,133	1,197,035
期中平均株式数 (株)	8,759,928	8,751,294

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 6. その他

## (1) 役員の変動

平成28年8月3日公表「取締役の変動に関するお知らせ」をご参照ください。

## (2) その他

## ①生産実績

当事業年度の生産実績を単一セグメント内の品目別に示すと、次のとおりであります。

単一セグメント内品目別	当事業年度(第28期) (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	前年同期比 (%)
採血管準備装置 (千円)	3,337,582	73.1
検体検査装置 (千円)	710,956	146.0
消耗品等 (千円)	4,219,797	100.2
その他 (千円)	147,057	51.1
合計 (千円)	8,415,394	88.1

(注) 1. 金額は販売価格によっております。  
2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

## ②受注状況

見込み生産をおこなっておりますので、該当事項はありません。

## ③販売実績

当事業年度の販売実績を単一セグメント内の品目別に示すと、次のとおりであります。

単一セグメント内品目別	当事業年度(第29期) (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	前年同期比 (%)
採血管準備装置 (千円)	3,948,137	93.0
検体検査装置 (千円)	544,202	89.1
消耗品等 (千円)	4,290,996	104.4
その他 (千円)	249,084	138.8
合計 (千円)	9,032,422	98.8

(注) 1. 輸出高の総額及び総販売実績に対する輸出高の割合は、次のとおりであります。

輸出先	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)		当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	
	金額 (千円)	割合 (%)	金額 (千円)	割合 (%)
ヨーロッパ	107,821	12.0	171,831	21.5
中南米	120,049	13.3	141,400	17.7
アジア	648,224	71.9	457,132	57.2
その他	25,114	2.8	28,961	3.6
合計	901,210 (9.9%)	100.0	799,325 (8.8%)	100.0

2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。